



柚須原観音堂の祠を市有形文化財に指定

このたび、市内柚須原にある柚須原観音堂から見つかった祠(ほこら)が、市の有形文化財に指定されました。

「平石坊権大僧□和尚」
「寛文九□十二月」

と、文字が刻まれているこの祠は、古くから山岳修行(修験道)が行われている宝満山と、深いかかわりを持っています。

「平石坊」とは、宝満山中につくられた僧侶の住居、「坊(ぼう)」のひとつを指していると考えられます。



瓦質祠の写真

寛文九年十二月平石坊権大僧□和尚銘 瓦質祠

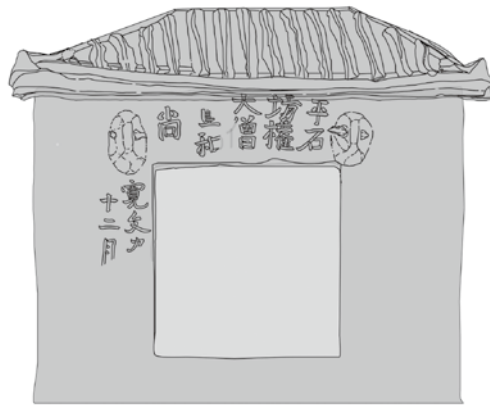
つづいて、「権大僧□和尚」とは、若くして宝満山二十五坊の衆頭(山伏衆のリーダー)を務めた平石坊弘有(ひらいしぼうこうゆう)に該当すると考えられます。それは、寛文9年(1669年)の時期が、弘有が衆頭であった1658〜1688年(万治元年〜元禄元年)の間に一致することからわかります。

弘有は、室町時代に起こった戦乱によって荒廃した宝満山を立て直すため、經典や仏具の寄進、講堂の再建、祭事の復興などを行いました。

寛文5(1665)年には、宝満山が本山派寺院の聖護院(京都市)の末山に認められ、翌年には弘有が「僧都法印」の位(僧の位の最上位)を授かっています。

弘有は、中世以降400年余り続いてきた宝満山信仰の存亡の機に、強い意志を持って山の復興事業を次々と実現していった、宝満修験道の歴史を語る上で欠かせない人物です。

この祠は、刻まれている文字から、平石坊弘有の果たした業績の一端を垣間見ることができます。そして、宝満



祠の復元想定図

修験道の信仰のあり方が形としてわかる資料として、高い評価を与えることができるものなのです。

※便宜上、名称の漢字にルビを振っていますが、複数の読み方があるため、実際には指定名称にはルビは振られていません。
※「□」は祠が欠けていて文字が読めない部分です。

● 問い合わせ先 文化情報発信課
(筑紫野市歴史博物館内)
☎(921)8419

五郎山古墳館

冬のダンボール織り体験

私たちの身の回りには、さまざまな布製品であふれています。五郎山古墳の壁画にも、人の服や旗などが描かれており、昔から織物が使われていたことがわかります。

冬のダンボール織りは、古代の織物や簡単な布のしくみについて学びながら、糸とダンボールをつかってコースターを織る体験です。

子どもから大人まで、誰でも参加できますので、ぜひご来館ください！(参加無料、申込不要)

● 期間 12月16日(土)〜1月8日(月・祝)、10時〜16時
※12月18日(月)、25日(月)、12月28日(木)〜1月4日(木)は休館
● 場所 五郎山古墳館(市内原田3-9-5)

● 問い合わせ先
五郎山古墳館 ☎(927)3655
※小学生未満の参加者は保護者の同伴をお願いします。

